



刻歩極頂

長井市立西根小学校
学校だより第15号
令和5年12月15日

「刻歩極頂」(こくほきょくちょう) 一歩一歩の歩みを大切に 頂上にとどり着く
長井市初代名誉市民 孫田 秀春 博士 揮毫

弾けるがごとく活動する子供たち

- ◇ 12月7日(木)、2年生が1年生を「おもちゃまつり」に招待していました。教室内だけで足りずに廊下まで広げられたおもちゃの様々なブース。1年生に手取り足取り教えながら、楽しく充実したひとときを過ごしました。2年生も1年生もとても満足した様子でした。



「おもちゃまつり」を行った2年生と招待された1年生

- ◇ 11月20日(月)、5年生がJA青年部のご支援をいただいて育てたお米を袋詰めしました。その「西根米」を各ご家庭に配布、その「西根米」を炊いて6年生は11/28(火)が「弁当の日」、1～5年生は12/12(火)までの間に「西根米」を使って親子でおにぎりを作ります。
- ◇ 11月28日(火)、6年生は「弁当の日」でした。早起きして見事なお弁当を作ってきました。6年生の手作りお弁当は、どれもよく工夫された力作揃いです。さぞ、美味しかったことでしょう。充実感が食べている表情から伝わります。



「西根米」を袋詰めする5年生



自作のお弁当を食べる6年生



力作揃いの6年生のお弁当 実に美味しそう！

- ◇ 11月30日（木）、長井市教育委員会の大場先生にご指導いただいて、4年生のプログラミング学習が行われました。写真は、47都道府県の名前や位置をパズルで楽しく学んでいる場面です。年間を通してどの学年も、こうしてプログラミング学習を行っています。



みんな生き生きと学ぶプログラミング学習の様子

- ◇ 12月8日（金）、3年生が「昔語り発表会」を行いました。長井小町の会の皆様に何度もご指導をいただいて上手になり、堂々と、そして味のある発表になりました。発表の様子を2年生にも見てもらい、来年につながります。こうして地域の文化が受け継がれます。



3年生の見事な「昔語り発表会」は次の学年へ

<ミニコラム> 子供の心とことばを育てるために（その18）

お駄賃をいただいた思い出

子供の頃、学校から頼まれた配付物を持って、近くの家に届けた時、何度も「お駄賃」をいただいたことがある。

区長さんとか町内長さんとか、地区内の偉い方々への封書が多かったが、時々、区長さんとか町内長さんの奥様からお駄賃をいただいて、とてもうれしかったことを覚えている。そして、区長さんとか町内長さんより先に奥様の顔を覚えたものだった。そんなことを繰り返す中で、しだいに地域を覚えることができた。今、考えてみると、地域の方々に育てていただいたのだ。

そんなことを思い出して、私がPTAの地区役員を引き受けた時は、娘と一緒に町内44戸を歩いてPTA広報を配っていた。そして、何人かの奥様方（時にはだんな様）から娘はお駄賃をいただいた。チョコレート、お煎餅、クッキー、みかん、りんご、スナック菓子。時には、生みたての卵とか搾りたての牛乳、暑いだろうとアイスをご馳走になったこともある（私も。すいません）。

中でも、そんな親子の訪問を特に楽しみにしてくれていたのは、一人暮らしのおばちゃんたちだった。私と娘が歩いている姿を見つけると、到着するより早くお駄賃を出して待っていてくれた。そして、娘と私にいろんなことを話しかけ、「また来いな」と言ってお駄賃をくださった。「あの親子は、いっぱい話してくれるからいい」とか、時には近所の評判になっていたことさえある。最高齢は99歳。娘も私も訪問するのがいつも楽しみだった。私は、そんな子供と地域の方々とのおふれあいが大好きだ。子供が地域とのつながりを持つ「はじめの一步」は、お駄賃なのかなと思う。

そういう私は、休日に家の近くの畑で慣れない野菜づくりなどをしていると、よほど見かねたのか、近所の奥様方が上手に育てた野菜をくださる。私の場合、畑で育てた野菜よりも、畑でもらった野菜の方が多い。・・・やはり、何歳になっても、地域の中では「子供」なんだろうな。